

2017年12月期 決算説明会

2018年2月9日
株式会社電通国際情報サービス

COPYRIGHT INFORMATION SERVICES INTERNATIONAL-DENTSU, LTD.

AGENDA

第1部 2017年12月期決算概況、 および2018年12月期業績予想について

取締役 専務執行役員
上原 伸夫

第2部 中期経営計画 最終年度に向けて

代表取締役社長
釜井 節生

(1) 2017年12月期 連結業績

前期比

売上高は過去最高。不採算案件発生により営業利益・経常利益は減益となったものの、当期純利益は三鷹DC売却に伴う特別利益の計上等によりほぼ前期並み。

期初予想比

売上高はほぼ予想並み。一方、不採算により営業利益・経常利益が予想未達となったため1/19に業績予想修正発表。なお、当期純利益はほぼ予想並み。

期末配当

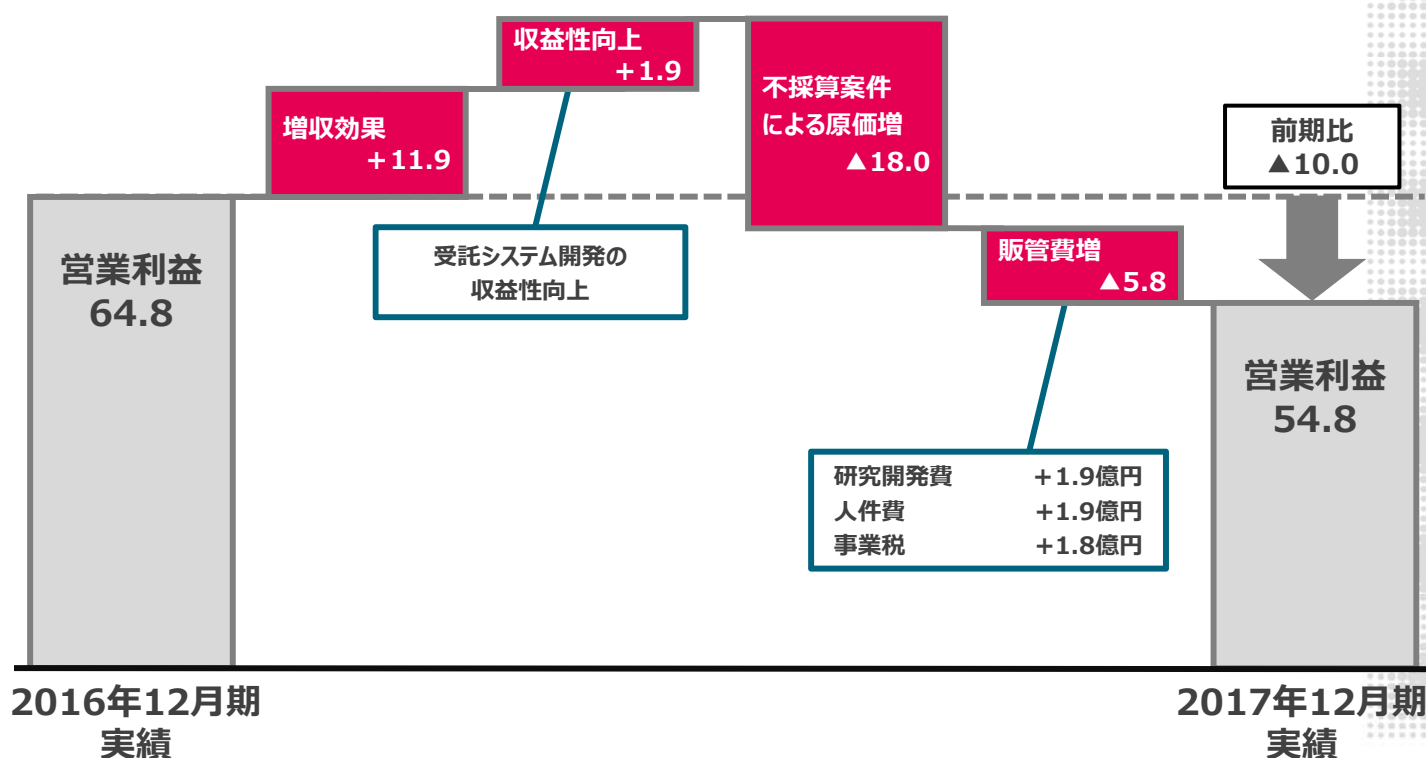
予想から1株当たり2円増配し27円実施予定（通期52円／5期連続増配）

(単位：百万円)

	2017年12月期	前期比			期初予想 (2017/2/9発表) 比		
		前期	増減額	増減率(%)	予想	増減額	増減率(%)
売上高	83,423	79,783	+3,640	+4.6	84,000	▲577	▲0.7
売上総利益	25,708	26,127	▲419	▲1.6	27,996	▲2,288	▲8.2
売上総利益率	30.8%	32.7%	▲1.9p	-	33.3%	▲2.5p	-
販売費及び一般管理費	20,219	19,638	+581	+3.0	21,295	▲1,076	▲5.1
営業利益	5,489	6,488	▲999	▲15.4	6,700	▲1,211	▲18.1
営業利益率	6.6%	8.1%	▲1.5p	-	8.0%	▲1.4p	-
経常利益	5,642	6,704	▲1,062	▲15.8	6,737	▲1,095	▲16.3
親会社株主に帰属する当期純利益	4,438	4,580	▲142	▲3.1	4,549	▲111	▲2.4
ROE	9.6%	10.5%	▲0.9p	-	9.8%	▲0.2%	-

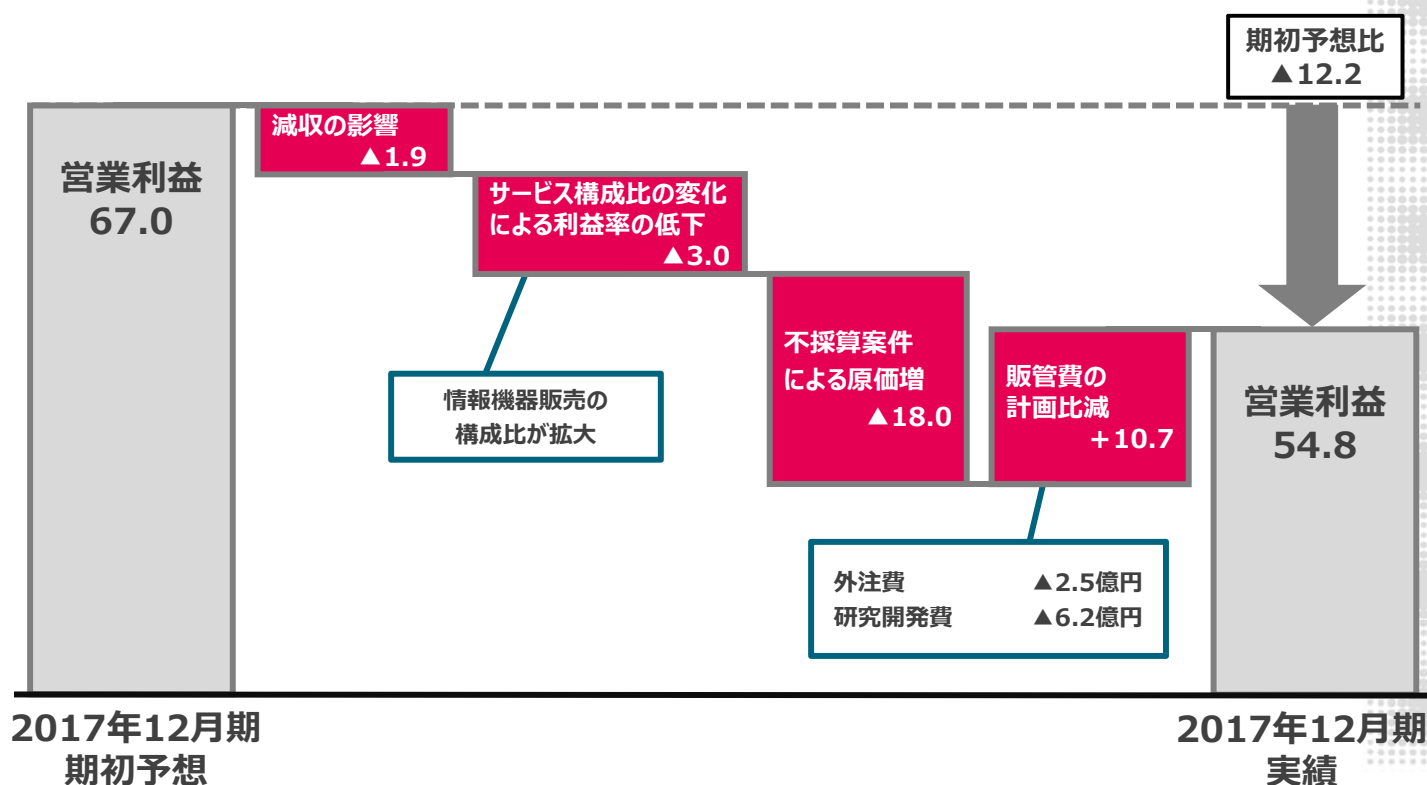
(2)-1 営業利益の増減要因【前期比】

(単位：億円)



(2)-2 営業利益の増減要因【期初予想比】

(単位：億円)



(3) 事業セグメント別売上高および営業利益

(単位：百万円)

事業セグメント	2017年12月期	前期比			期初予想比		
		増減額	増減率(%)	概況	増減額	増減率(%)	
金融ソリューション	売上高	21,413	▲624	▲2.8	「BANK・R」案件の反動減、クラウド向け受託システム開発案件の伸び悩みにより減収。減収により減益となるも、営業利益率8%台維持。	▲1,953	▲8.4
	営業利益	1,821	▲289	▲13.7		▲717	▲28.3
	%	8.5%	▲1.1p	-		▲2.4p	-
ビジネスソリューション	売上高	17,033	+68	+0.4	「POSITIVE」等ソフトウェア製品販売が堅調に推移し、売上高は前期並み。一方、一部案件の不採算化ならびにR&D等の費用増により減益。	+239	+1.4
	営業利益	▲169	▲1,835	-		▲1,205	-
	%	▲1.0%	▲10.8p	-		▲7.2p	-
エンジニアリングソリューション	売上高	25,530	+1,658	+6.9	MBDソリューションや「NX」の拡大により増収。増収効果に加え、収益性改善により増益。	▲369	▲1.4
	営業利益	1,359	+667	+96.4		+198	+17.1
	%	5.3%	+2.4p	-		+0.8p	-
コミュニケーションIT	売上高	19,445	+2,537	+15.0	電通との協業ビジネスは前期並みを維持。電通向けが労働環境改革を背景に大幅拡大し、増収増益。	+1,507	+8.4
	営業利益	2,477	+459	+22.7		+513	+26.1
	%	12.7%	+0.8p	-		+1.8p	-

(4) サービス品目別 連結売上高

(単位：百万円)

サービス品目	2017年 12月期	前期比			期初予想比	
		増減額	増減率(%)	概況	増減額	増減率(%)
コンサルティングサービス	5,515	+89	+1.6	MBDの導入支援分野ならびにデジタルマーケティング分野が自動車業界向けを中心に拡大	+48	+0.9
受託システム開発	22,473	+851	+3.9	電通や運輸業向けを中心に拡大	▲1,645	▲6.8
ソフトウェア製品	14,752	▲44	▲0.3	「BANK・R」の反動減があったものの、「POSITIVE」、「iQUAVIS」の拡大によりほぼ前期並み	▲867	▲5.6
ソフトウェア商品	25,077	+1,227	+5.1	「NX」が電機・精密業界向けを中心に、SAPがサービス業向けを中心に拡大	+181	+0.7
アウトソーシング・運用保守	8,587	+572	+7.1	電通グループ向けが拡大	+490	+6.1
情報機器販売・その他	7,017	+946	+15.6	電通グループ向けが拡大	+1,215	+20.9

(5) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2017年 12月31日	2016年 12月31日	対前期末 増減	主な増減要因
流動資産	59,311	55,046	+4,265	売上債権の増加(+2,552)、前渡金の増加(+931)、仕掛品の増加(+199)
固定資産	12,692	11,244	+1,448	投資有価証券の増加(+1,817)、有形固定資産の減少(▲226)
資産合計	72,003	66,291	+5,712	
流動負債	21,950	19,573	+2,377	前受金の増加(+801)、仕入債務の増加(+619)、受注損失引当金の増加(+558)、未払法人税等の増加(+361)
固定負債	2,252	1,690	+562	リース債務の増加(+458)
負債合計	24,203	21,263	+2,940	
純資産合計	47,800	45,027	+2,772	利益剰余金の増加(+2,679)
負債純資産合計	72,003	66,291	+5,712	

(6) 連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	2017年12月期	今期の主な動き	前年同期比	
			2016年12月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,265	税金等調整前当期純利益 (6,267) 減価償却費 (2,245) 売上債権の増加額 (▲2,524) 法人税等の支払額 (▲1,724)	8,303	▲4,038
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,855	投資有価証券の取得による支出 (▲1,741) 無形固定資産の取得による支出 (▲1,188) 有形固定資産の取得による支出 (▲753) 有形固定資産の売却による収入 (2,001)	▲34	▲1,821
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2,363	配当金の支払額 (▲1,759) リース債務の返済による支出 (▲593)	▲1,991	▲372
現金及び現金同等物に係る換算差額	57		▲258	+315
現金及び現金同等物の増減額 (▲は減少)	105		6,018	▲5,913
現金及び現金同等物の期首残高	30,248		24,230	+6,018
現金及び現金同等物の期末残高	30,353		30,248	+105

主な投資活動

分類	領域	投資先
投資有価証券の取得 計17億円	IoT/ビッグデータ	ベジタリア株式会社 Predictronics Corp.
	サイバーセキュリティ	株式会社Blue Planet-works 株式会社カウリス
	自動運転・自動搬送	株式会社ZMP
	先端技術	グローバル・ブレイン株式会社(ファンド)
無形固定資産の取得 計11億円	「iQUAVIS」、「POSITIVE」、「BANK・R」、「STRAVIS」の機能強化等	
有形固定資産の取得 計7億円	株式会社エステックにおける第2実験場建設等	
有形固定資産の売却 計20億円	三鷹データセンター売却	

(7) 受注高・受注残高

(単位：百万円)

		受注高		受注残高	
		2017年12月期	前期比 増減率(%)	2017年12月期	前期比 増減率(%)
受託系の サービス品目 対象 ※	金融ソリューション	16,721	▲5.6	3,569	+6.7
	ビジネスソリューション	9,456	▲19.6	3,068	▲16.4
	エンジニアリングソリューション	5,828	+32.6	1,091	+67.8
	コミュニケーションIT	7,849	+12.1	922	▲17.6
	合計	39,856	▲2.5	8,651	▲1.5
全サービス品目 対象	金融ソリューション	22,600	▲5.0	5,214	+1.1
	ビジネスソリューション	18,460	▲10.0	5,995	▲6.5
	エンジニアリングソリューション	24,591	+9.2	8,436	+18.7
	コミュニケーションIT	17,311	+21.6	4,482	+56.2
	合計	82,963	+3.7	24,128	+12.0

※ 当社グループが決算短信等で開示している受注高・受注残高は、6つのサービス品目のうち、受託開発と、ソフトウェア製品およびソフトウェア商品の一部(ソフトウェア開発およびソフトウェア開発保守)のみを対象としています。エンジニアリングサービス、ソフトウェア製品・商品の一部(ソフトウェア販売/ソフトウェア保守)、アウトソーシング・運用保守サービス、情報機器販売・その他は含んでおりません。

2018年12月期業績予想

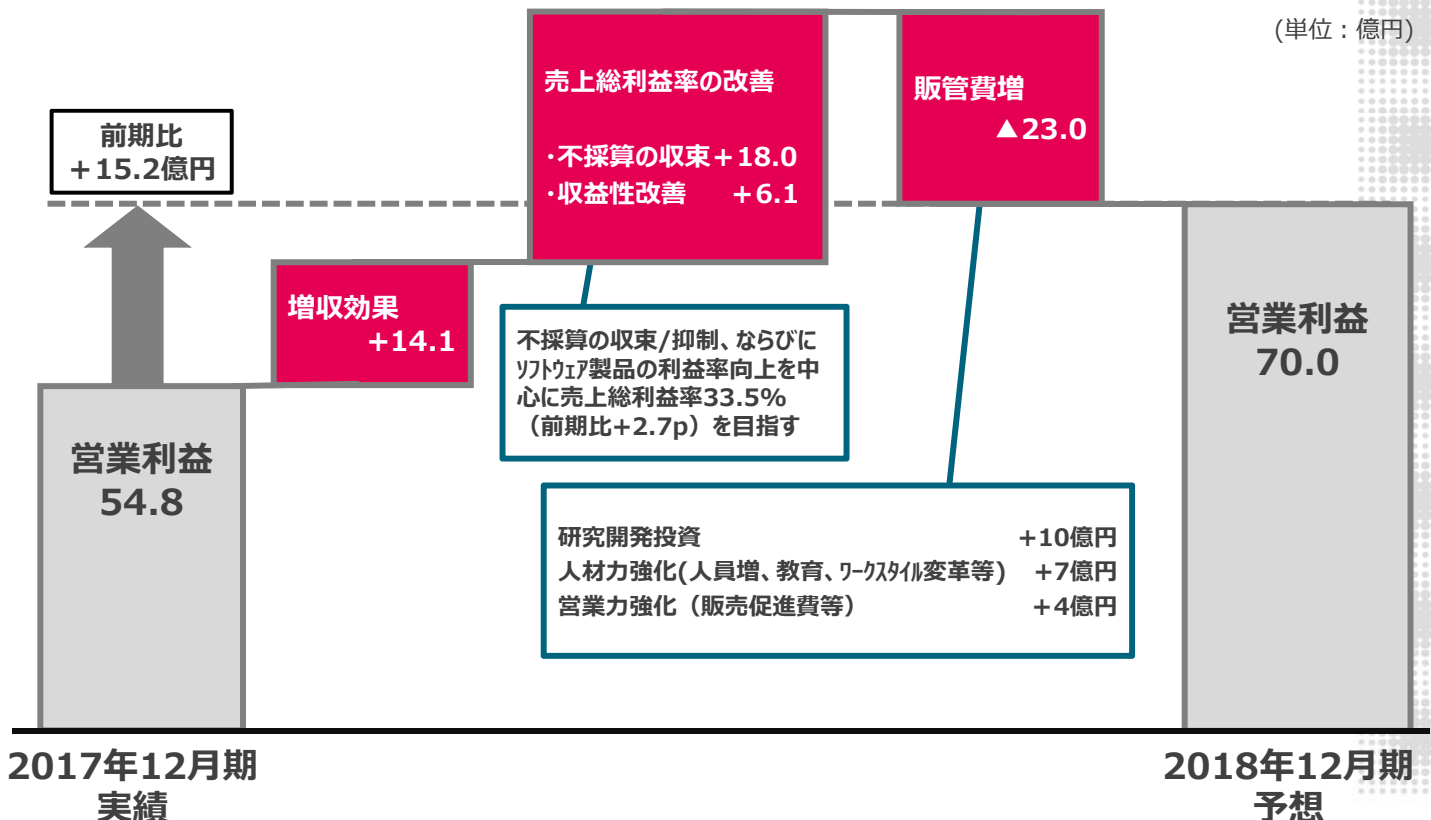
(1) 2018年12月期 業績予想

(単位：百万円)

ポイント	通期	前期との比較			
		前期	増減額	増減率(%)	
【売上高】 中計目標は下回るものの、 5%超の増収を目指す	売上高	88,000	83,423	+4,577	+5.5
【営業利益】 中計営業利益率目標 8%を目指す	営業利益	7,000	5,489	+1,511	+27.5
	営業利益率	8.0%	6.6%	+1.4p	-
成長に向け、 人材への投資、 研究開発投資を拡大	経常利益	7,034	5,642	+1,392	+24.7
社長直轄で「不採算案件撲滅委員会」設置(2017/11) 再発防止を徹底	親会社株主に帰属する 当期純利益	4,807	4,438	+369	+8.3

(2) 2018年12月期 営業利益の増減要因

(単位：億円)



(3) 2018年12月期 売上高予想 <事業セグメント別>

(単位：百万円)

事業セグメント	通期	前期との比較			注力分野
		前期	増減額	増減率(%)	
金融ソリューション	23,400	21,413	+1,987	+9.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・大手金融機関向け受託システム開発 ・地域金融機関向け「BANK・R」 ・グローバル（上海）
ビジネスソリューション	17,600	17,033	+567	+3.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・「POSITIVE」 ・「STRAVIS」 ・「SAP」
エンジニアリングソリューション	28,000	25,530	+2,470	+9.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・「iQUAVIS」をコアとするMBDソリューション ・CAD/CAM/CAE/PLM ・知的保全/スマートファクトリー/IoT関連 ・グローバル（タイ）
コミュニケーションIT	19,000	19,445	▲445	▲2.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・電通グループ向け基幹システム ・電通協業（デジタルマーケティング分野ならびに公共分野）

※ STRAVIS…連結会計ソリューション iQUAVIS…構想設計ソリューション

(4) 2018年12月期 売上高予想 <サービス品目別>

(単位：百万円)

サービス品目	通期	前期との比較		
		前期	増減額	増減率(%)
コンサルティングサービス	5,678	5,515	+163	+3.0
受託システム開発	23,874	22,473	+1,401	+6.2
ソフトウェア製品	16,241	14,752	+1,489	+10.1
ソフトウェア商品	26,952	25,077	+1,875	+7.5
アウトソーシング・運用保守サービス	8,209	8,587	▲378	▲4.4
情報機器・その他	7,044	7,017	+27	+0.4

(5) 2018年12月期上期 業績予想

(単位：百万円)

	上期 (1-6月)	前年同期との比較			通期に対する 割合
		前年同期	増減額	増減率(%)	
売上高	41,941	40,525	+1,416	+3.5	47.7%
営業利益	3,211	3,133	+78	+2.5	45.9%
営業利益率	7.7%	7.7%	-	-	-
経常利益	3,243	3,210	+33	+1.0	46.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,224	2,801	▲577	▲20.6	46.3%

(6) 2018年12月期上期 売上高予想

■ 事業セグメント別

(単位：百万円)

事業セグメント	上期 (1-6月)	前年同期との比較		
		前年同期	増減額	増減率(%)
金融ソリューション	11,333	10,542	+791	+7.5
ビジネスソリューション	8,116	8,960	▲844	▲9.4
エンジニアリング ソリューション	13,290	12,337	+953	+7.7
コミュニケーションIT	9,201	8,683	+518	+6.0

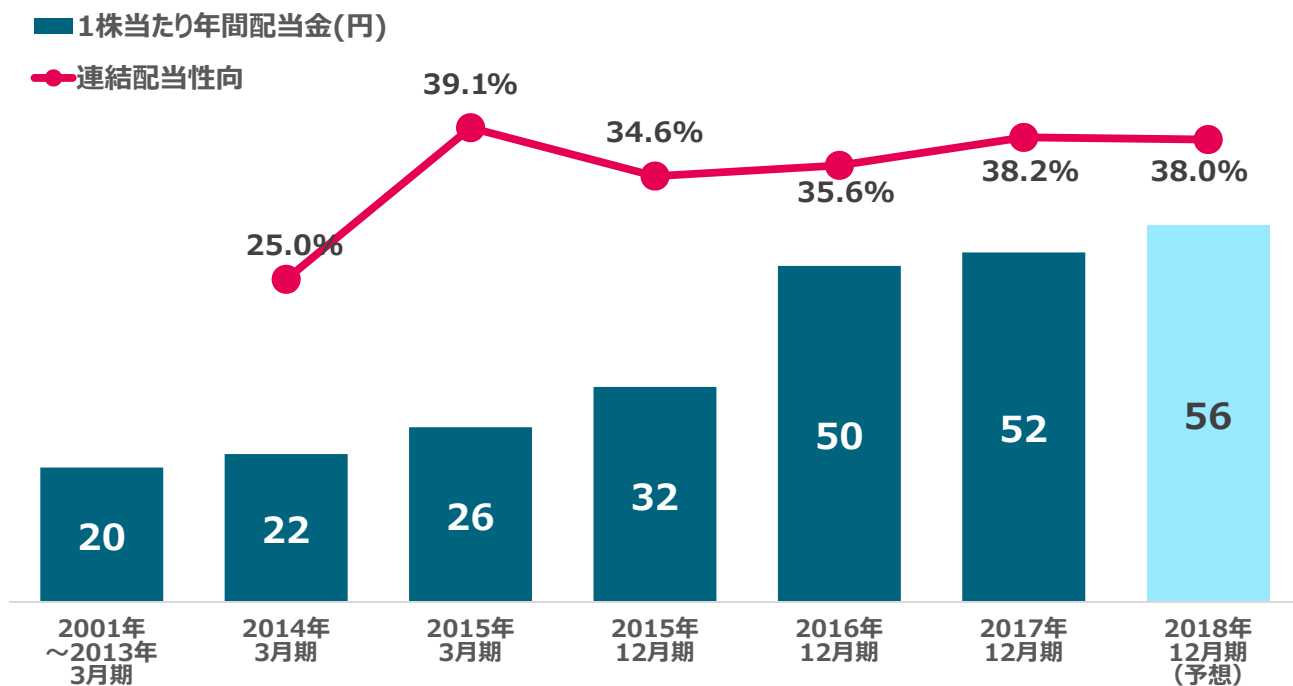
■ サービス品目別

(単位：百万円)

サービス品目	上期 (1-6月)	前年同期との比較		
		前年同期	増減額	増減率(%)
コンサルティング	2,828	2,814	+14	+0.5
受託システム開発	11,555	10,974	+581	+5.3
ソフトウェア製品	7,605	7,312	+293	+4.0
ソフトウェア商品	12,805	12,354	+451	+3.7
アットリーニング・ 運用保守サービス	4,014	3,906	+108	+2.8
情報機器・その他	3,131	3,163	▲32	▲1.0

(7) 2018年12月期 配当予想

- 1株当たり56円（中間28円／期末28円） ～ 6期連続増配を目指す



主要プレスリリース <2017年11月～2018年1月>

金融ソリューションセグメント

- 1/18 グローバルFinTechイベント「FIBC2018」を3月2日に開催
- 1/19 ニューメリカルテクノロジーズと金融機関向けリスク管理ソリューションの提供で業務提携
- 1/29 不正アクセス検知「FraudAlert」をセブン銀行が金融機関で初めて導入へ

ビジネスソリューションセグメント

- 12/8 クラウドセキュリティの国際規格「ISO/IEC 27017」の認証を取得
- 12/21 伊藤忠商事にグローバルデータ収集システム「STRAVIS-LINK」を提供

エンジニアリングソリューションセグメント

- 12/19 米国プレディクトロニクス社への出資を拡大
- 12/27 トヨタ自動車のアジア3拠点と日本を結ぶVR集合教育の実証実験に成功
- 2/7 産業ロボットの故障予知アルゴリズムをマイクロサービス化 GEのIoT基盤「Predix」開発者向けサイト上で公開

オープンイノベーションラボ・他

- 11/30 RPAツール「UiPath」の本格提供を開始
- 12/27 テレワーク勤務制度を全社員に拡大

中期経営計画 最終年度に向けて ISiD Open Innovation 2018『価値協創』

中期経営計画 <骨子>

ISiD Open Innovation 2018『価値協創』

～あらゆるパートナーとのコラボレーションを通じて、新しい価値を創出し、お客様や社会の課題解決に貢献する～

基本方針

①競争優位性の追求 ②新たなビジネス領域の開拓 ③人材力の強化

業績目標

	2015年 1～12月実績	2018年 12月期	CAGR (年平均成長率)
売上高	812億円	1,000億円	7.2%
営業利益	55億円	80億円	13.3%
営業利益率	6.8%	8.0%	

各種指標

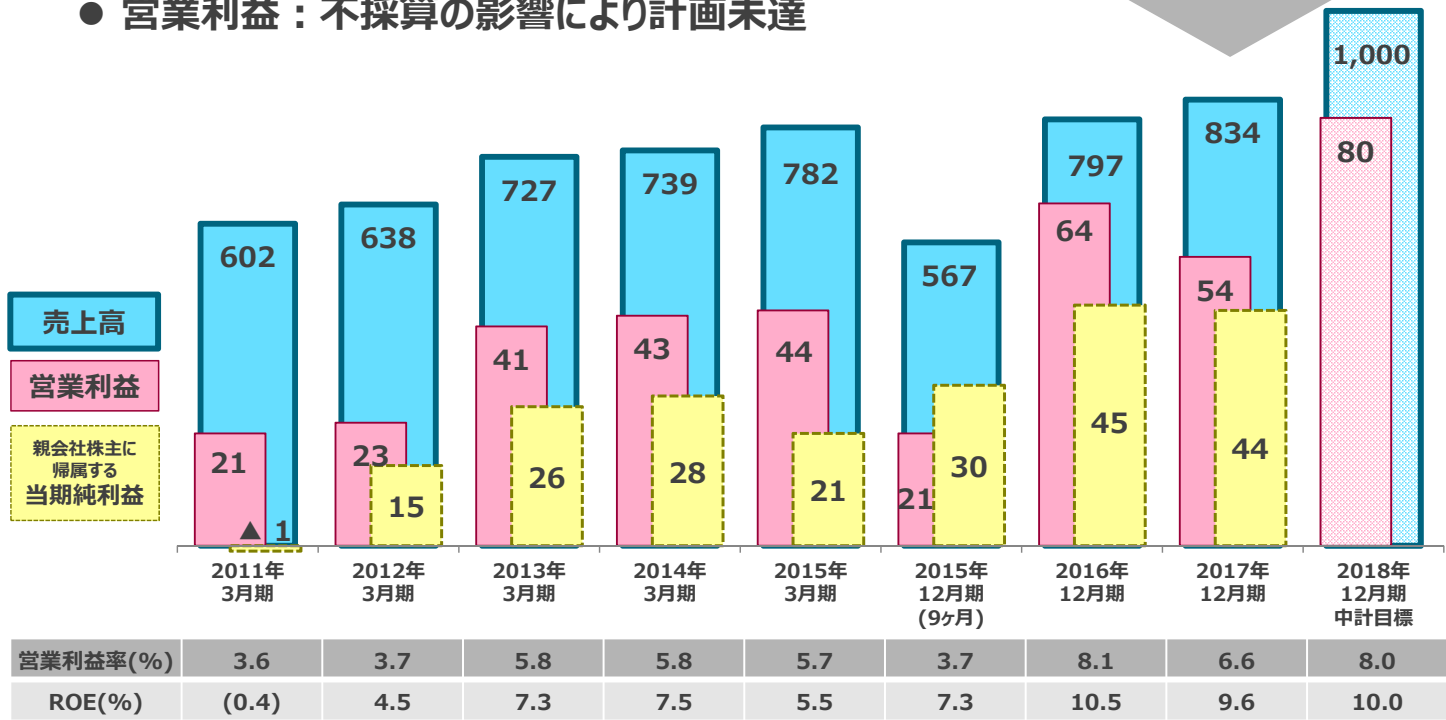
ROE	10.0% 以上
連結配当性向	35～40%を目安
M&A投資枠	3カ年合計100億円

戦略領域

「グローバル」 「IoT/ビッグデータ」 「2020&Beyond」

中計2年目の総括

- 売上高：過去最高を達成
- 営業利益：不採算の影響により計画未達



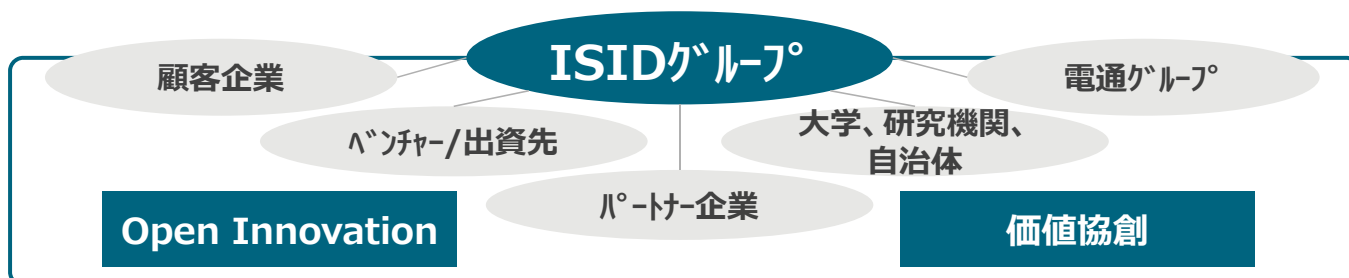
中計最終年度の業績予想

- 中計目標には届かないものの、営業利益率8.0%の達成を目指す
- 中計目標との差異は、オーガニック/イオガニックが半分ずつ

	中計目標	2018年度 予想	差異	差異の主要因
売上高 (億円)	1,000	880 前期比+5.5%	▲120	・オーガニック▲60 ・イオガニック▲60
営業利益 (億円)	80	70 前期比+27.5%	▲10	・オーガニック▲5 ・イオガニック▲5
営業利益率	8.0%	8.0%		
ROE	10%	9.8%		
配当性向	35-40%	38%		

Society 5.0の実装・実現に向けて

社会課題の解決と経済成長を同時に実現する超スマート社会「Society5.0」
ISIDは強みを生かし、「Society 5.0」の実装・実現に貢献していく



金融リノベーション

中計最終年度予想

	2017年度実績	2018年度予想	前期比	2018年度予想と 中計目標とのGAP
売上高	214	234	+20 +9.3%	▲43
営業利益	18	24	+6 +37.2%	▲6

注力ポイント

- ◆ 金融機関のデジタルトランスフォーメーションを強力に支援
 - FinTech企業との協業による新しい金融サービスの創出
 - 先進テクノロジー（AI、ブロックチェーン等）の実装 ～実証実験から本格導入へ
 - 大手銀行の投資優先領域（海外、リスク管理、規制対応等）への注力
 - 新たなサービス開発を加速するリース業向けに基幹業務システム「Lamp」をグローバル展開

ビジネスリノベーション

中計最終年度予想

	2017年度実績	2018年度予想	前期比	2018年度予想と 中計目標とのGAP
売上高	170	176	+6 +3.3%	+2
営業利益	▲1	8	+9 -	▲1

注力ポイント

- ◆ 自社開発のソフトウェア製品を核に企業のデジタルトランスフォーメーションを支援
 - 「POSITIVE」～働き方改革/タレントマネジメントニーズへ対応
 - 「STRAVIS」～連結会計を軸にグループ経営管理リノベーション強化
 - 「次世代インタープライズITプラットフォーム」の開発を加速

エンジニアリングソリューションセグメント

中計最終年度予想

	2017年度実績	2018年度予想	前期比	2018年度予想と 中計目標とのGAP
売上高	255	280	+25 +9.7%	▲10
営業利益	13	14	+1 +4.3%	-

注力ポイント

- ◆ 製造業のデジタル・インテグレーション実現に向けソリューションをさらに強化
 - MBD/MBSEのさらなる推進
 - 自動車のCASE（Connected, Autonomous, Shared, Electric）支援
 - シーメス製品をコアにスマートファクトリーの推進
 - PLM大型案件の加速

コミュニケーションITセグメント

中計最終年度予想

	2017年度実績	2018年度予想	前期比	2018年度予想と 中計目標とのGAP
売上高	194	190	▲4 ▲2.3%	▲10
営業利益	24	22	▲2 ▲8.5%	+1

注力ポイント

- ◆ 電通・電通グループとの協業ビジネスのさらなる強化に向け、
（株）電通デジタルと「電通デジタルマーケティングテクノロジーセンター」創設（2017年11月）
- ◆ RPA（Robotic Process Automation）ビジネス推進
- ◆ 電通グループ基幹システムの高度化支援 ～労働環境改革をキーワード

セグメント共通の戦略領域1

IoT/ビッグデータ/AI

- ◆ AIによる因果情報解析サービス「CALC」
～ リニコーコンピュータインテリジェンス研究所、クジツと協業し、適用案件拡大
- ◆ ビッグデータ解析による「故障予知ソリューション」
～ ソリューション強化を加速すべく、米Predictronics Corp. へ出資拡大・関連会社化
～ 市場拡大を目指しGEのIoT基盤「Predix」上でサービス公開開始
- ◆ サイバーセキュリティ・ビジネス
～ セキュリティビジネスへの参入に向け、生体認証サービスの「Liquid」、不正アクセス検知サービスの「カリス」、イントラポイントセキュリティソリューションの「Blue Planet-works」に出資
- ◆ アグリテック・ビジネス
～ ブロックチェーンによる食の安全(生産履歴のトレーサビリティ)の取り組みをさらに発展
～ アグリテックビジネスへの参入にむけ、農業IoT事業の「ハジタリア」に出資

セグメント共通の戦略領域2

2020& Beyond

- ◆ 2020°ロジック外関連
 - ◆ スポーツxIT
～ 企業や社会で人々の運動マインドを向上させるプログラム「エブリスポ！」
～ 子どもの運動能力判定システム「Digsports」
 - ◆ 地方創生・まちづくり
- ⇒ 2020& Beyondに向け
電通・電通グループとの協業加速
- ◆ 自動運転・自動搬送領域
～ 「テスト走行」「自動制御」「物流自動化」「宅配ロボット」等の領域における
新規ビジネスの創出を目指し、「ZMP」に出資
- ⇒ 全社横断で
新規ソリューションの創出を加速